

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 3 月 31 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 - 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	永峯 治之	経営	H1901102
	②	笠井 昌子	福祉	H2201084
	③	三谷 宏文	福祉、経営	H2301066
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	認定こども園			
評価対象事業所名称	芝浦アイランドこども園			
事業所連絡先	〒	108-0023		
	所在地	東京都港区芝浦4丁目20番1号		
	TEL	03-5443-7337		
事業所代表者氏名	興津 夏子			
契約日	2025 年 6 月 18 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 11 月 21 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 8 月 6 日			
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 3 日			
訪問調査日	2025 年 11 月 26 日			
評価合議日	2025 年 11 月 26 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事業所にて事前説明を行い、全体の流れや留意事項を確認した。また、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 園長 興津 夏子

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none">1. 保育園・幼稚園のそれぞれの良さを活かし、乳幼児期にふさわしい生活を保障する。2. 0歳から小学校入学前までの一貫した教育及び保育を行う。3. 保護者・地域・園がつながり支え合い一人ひとりの健やかな育ちと学びを保障する。4. 子育ての喜びや保護者としての成長を実感できるよう、子育て家庭を支援する。5. 個性を大切に、生きる力を育み、生きる喜びを感じることを大切に保育していく。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもたちが愛されていると実感できるように子どもたちを見守ること。 子どもを取り巻く人々が出会い、共に育ちあう園 大人の考える軌道に乗せて子どもを管理する保育ではなく、子どもの側に立ち、子どもが豊かな経験をできるようにする。 保育の研鑽に励み、保育者として成長し続ける。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>日々の関わりの中で、子どもや保護者とふれ合い、豊かな自然や文化に囲まれて、当たり前の生活を土台にする。 困難な保育に対して、「チームによる保育」をすすめる。 子どもにとって「心地よい場所」「心地よい保育」を創造する。</p>

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数	149
利用者家族総数(世帯)	127
共通評価項目による調査対象者数	62
共通評価項目による調査の有効回答者数	62
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	48.8

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>
 「満足」74%、「まあまあ満足」21%、計95%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>
 ・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	53	6	3	0
回答者の85%が「はい」と回答した。				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	57	4	1	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	59	3	0	0

回答者の95%が「はい」と回答した。

4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	58	3	1	0
回答者の94%が「はい」と回答した。				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	50	9	3	0
回答者の81%が「はい」と回答した。				
6. 保育時間の変更が急きょ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	53	6	0	3
回答者の85%が「はい」と回答した。				
7. 安全対策が十分取られていると思うか	47	10	5	0
回答者の76%が「はい」と回答した。				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	50	9	2	1
回答者の81%が「はい」と回答した。				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	47	11	4	0
回答者の76%が「はい」と回答した。				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	53	5	4	0
回答者の85%が「はい」と回答した。				

11. 職員の待遇・態度は適切か	53	8	1	0
回答者の85%が「はい」と回答した。				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	53	7	0	2
回答者の85%が「はい」と回答した。				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	42	10	3	7
回答者の68%が「はい」と回答した。				
14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	56	5	1	0
回答者の90%が「はい」と回答した。				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	48	6	2	6
回答者の77%が「はい」と回答した。				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	49	9	3	1
回答者の79%が「はい」と回答した。				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	51	6	1	4
回答者の82%が「はい」と回答した。				

18. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	34	7	13	8
回答者の55%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	基本理念、教育・保育方針及び目標について理解の深まる取り組みをしている 芝浦アイランドこども園は区立のこども園として指定管理者による運営を担っている。園が運営を行う基本方針は「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」及び「重要事項説明書」や「カリキュラム」に明示している。職員には定期的な会議と掲示及び年度当初の職員会議において周知を図っている。また、見学者や利用希望者にはパンフレットやホームページで説明し、保護者には入園面接、入園式、保護者懇談会の際に説明し、さらに「園だより」にも掲載して園の考え方を伝えている。	
	園長は組織の責任者として理念の実現のためリーダーシップを発揮している 園長は、区及び法人の方針を念頭の置きながら、経営層としてのリーダーシップを発揮している。園運営を円滑に遂行するための職務分担の決定、年度計画及び各プロジェクトを推進など多岐にわたる業務を職員と共に実行している。さらに、職員の育成のために個々の意向を把握して、法人と連携して計画的な育成を実行している。園は地域の複合施設として機能しているため、在園児以外の子育て支援についても自ら職員の先頭に立ち実施している。	
	重要な案件について、定められた手順に従い検討・決定している 重要な案件は、定められた組織体制、各種会議で意思決定の方法が決められている。検討・決定のプロセスは乳幼児会議、リーダー会議を経て、園長主任会議で最終決定している。ただし、案件によっては各クラス、専門職の意見を聴取する場合もある。本部での決定事項は園長主任会議を経て職員に伝え、区からの通知なども園長を通じて、職員や必要に応じて保護者にも知らせている。利用者(保護者)にかかわる案件は、保育アプリの配信、保護者懇談会、お知らせ、園だより、掲示などの手段で伝えている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者、職員の意向や地域の福祉等の動向を把握しニーズや課題の抽出に努めている</p> <p>保護者の意見や要望を把握するため、保育参加及び保護者参加の行事後にアンケートを取り、課題抽出し、次年度の行事計画に反映させている。職員からは年2回の懇談による意向を確認している。また、園の評議員は地域の福祉を担う方々が委嘱されているため、評議員会においては地域の課題について協議している。さらに地域福祉の現状については、月1回開催する区の園長会、副園長会、保健担当委員会、栄養士会により情報を収集している。都や区主催の研修会等で福祉業界の動向について把握している。</p> <p>法人の決定した中長期計画を基に、単年度の事業計画を作成している</p> <p>区が提唱する「港区子ども・若者・子育て総合計画」の中期的な計画を参考にして、法人の決定した中長期計画を基に、単年度の事業計画書を作成している。事業計画の作成に当たっては、前年度の事業運営の振り返りを行い、今年度の方針を検討・決定している。また、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」については、年1回実施の運営協議会と園でそれぞれの項目について細かな部分までしっかりと検討を重ねて、より綿密な計画となっている。</p> <p>着実な計画の実行に向けて進捗状況を確認し、必要に応じて計画の見直しをしている</p>		

計画の実行については、年3回の評議員会及び年1回の運営協議会に報告し、助言を受けている。また、区担当部門からは、四半期ごとに監査を受けて、改善の必要がある課題に対してはその解決までの情報を共有している。保育に関する指導計画の作成に当たっては、クラスリーダーを中心に子どもたちの実態と発達を盛り込んだ案を作成している。これを、リーダー会議で各クラスの連続性を配慮して審議し、全体会議に上げて決定している。

3			カテゴリー3	
3			サブカテゴリー1(3-1)	
経営における社会的責任			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当	
3			サブカテゴリー2(3-2)	
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当	
3			サブカテゴリー3(3-3)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当	

カテゴリー3の講評

福祉サービス事業に従事する指針など学ぶ機会を設けている

職員が福祉サービス事業に従事するための規範は、「職員のしおり」や「保育職としての心得」に表されている。これらを職員で読み合わせをした上で、行動規範についての説明を受けて、これを遵守するため誓約書を提出している。さらに「入園のしおり」の内容について、職員全員による共有に努めている。また、保育理念・方針や行動指針を初めとして、人権尊重と個人情報保護、プライバシーポリシー、ハラスメントについて継続的に学習するため、職員会において話し合う機会を設けている。

保護者等の意見・要望・苦情については解決の手順を定めている

保護者から意見・要望・苦情を受けるための窓口は「入園のしおり(兼重要事項説明書)」中に園内、法人、区の総合支所及び保育課の連絡先を明示している。当園では、これらを受けた場合、自らの保育と保護者対応を振り返る機会と捉えている。また、園内に「ご意見箱」を玄関ロビーに設置している。園内での情報伝達の仕組みを「保育マニュアル」にフローとして表し、全職員が対応できるようにしている。さらに書式化された意見・苦情記録簿の記入によって、解決までの流れの検証や原因究明、再発防止に努めている。

地域の福祉ニーズにこたえるため、様々な交流及び貢献をしている

当園は新しく開発された高層住宅群の中に立地している。福祉サービスを行う施設として、当園及び児童高齢者交流プラザ併設されて、子育て世代の方から高齢者の方までの“共生の場”を目指して開設した。子どもたちにとってはさまざまな良い出会いの場となっている。在宅の子育て家庭も含めて、地域の福祉ニーズにこたえるため、一時保育や休日・祝日・年末保育等を実施している。園の専門性を活かして、育児講座、育児相談を行い、同時に、施設を利用した園庭開放やこども園であそぼう等のイベントを企画し、目的達成に向けて取り組んでいる。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>子どもの安心・安全に資するためリスクマネジメントに取り組んでいる</p> <p>園は海岸に近い運河に囲まれた立地のため、自治体の設定するハザードマップを常に意識して、危機管理と避難対策を講じている。リスクに対する優先順位は、職員会でリスクマネジメントの研修を行い学んでいる。また、年間計画に沿って、地震、火災、不審者対応、引き取り訓練等を行っている。訓練には、必要に応じて警察署、消防署の協力を得ている。事故等の対策については、事故報告やヒヤリハットの集計・分析を看護師が行い、年度初めの職員会で共有し、再発防止に努めている。</p> <p>区のマニュアルに則り作成した事業継続計画の周知をしている</p> <p>4. 大規模な災害や深刻な事故等に直面した際は、迅速に適切な対応をするため、「港区災害対応マニュアル」「緊急時対応マニュアル」に従って行動できるようシミュレーションを行っている。特に、初動体制において被害状況の把握や連絡網の構築や適切な備蓄計画、職員の参集の指針等を重視している。また、業務が停止した場合の再開までの手順については区の基準に従っている。事業継続計画については、職員は職員会、保護者は重要事項説明書、関係者については運営協議会でそれぞれ周知している。</p> <p>個人情報保護については規則に従い適正に取り扱いをしている</p> <p>5. 入園に際して様々な個人情報を扱っているため、書類の管理については「港区情報保護条例」に準じて行っている。個人情報保護に関して、規程の定めに従って全職員が年度初めの研修に参加して学んでいる。また、書類の保管方法及び電子データ類格納方法は規則に従って運用している。保護者には、入園時に個人情報の取扱いについて説明して、同意を得ている。さらに情報を外部の公共機関等に提供する際やパンフレットなどに掲載する子どもの写真等を使用する場合にも改めて保護者の同意を得ている。</p>		

5			カテゴリー5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリー1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当
			サブカテゴリー2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている			○非該当

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
--	--	---------------------------

カテゴリ5の講評

職員の採用は法人が行い、ホームページで園の紹介や保育内容の公開をしている

職員の欠員が生じた場合は本部と職員体制の状況を共有して人材の補充を依頼している。法人は、ホームページとリンクした採用ページでの人材募集案内の配信や教育機関にパンフレットを配布すると共に訪問して園の特色を説明している。また、保育実習生やボランティアの受け入れによって園の特性を知ってもらう機会を設けている。また、見学者には園長が面談をして考え方と人材育成について説明して、就業後のミスマッチを防ぎ、定着への取り組みを行っている。

法人が示したキャリアパスを実現するために様々な研修の機会を提供している

法人は、長期的な展望に立った人材育成の方針を明確にして、法人の一員としてのキャリアパスを示している。キャリアパスの実現に向けては法人研修・保育士等キャリアアップ研修・園内研修など様々な機会を提供している。また、職員の自主研修として3つのグループに分かれて、毎年課題に取り組みケース会議として事例も含めてパワーポイントで発表している。その際には、学識経験者を招き、講評を受けている。なお、課題は、「豊かな心」「確かな知性」「健やかな身体」をテーマに取り組みを行った。

意欲をもって仕事ができるように工夫をして取り組んでいる

7. 大規模園であるため、職員の数が多く、日々の情報伝達に工夫をしている。毎日のスタンド会議でその日に伝えるべき情報の共有を全クラスで行っている。また、園長による面接によって各職員の意向を話し合い、期待する姿を説明し、育成計画につなげている。研修は、参加後に提出された報告書をいつでも誰でも閲覧できるよう整え、さらに職員会で発表する機会を設けて学んだことを職員間で共有できるようにしている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

コロナ前後での世の中は変化しており、保育もかわっていく必要性を感じた。今まで通例に従って行っていた行事やプログラムの見直しを行うこととした。職員会で行事に関しての意見交換し、職員からの率直な意見を聞くことができた。そこで、「ほっとするコーヒーやさん」を再開することになった。再開したがまだまだ有効活用できる余地があるため、時間をお迎えの時間の16時30分～18時30分に変更した。お迎え前の時間にコーヒーや麦茶で保育者と歓談する姿が見られるようになり、また子どもを連れてゆとりのある時間で利用でき、とても良い交流の場となった。最近では保護者同士の交流も見られるため、今後はベンチ等を設置など、交流の場としての環境を整えていくことを検討している。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

コロナ禍を経て人々の価値観や社会のあり方は大きく変化している。このような変化を感じながら、園としての役割を自覚し、これまで行ってきた取り組みの見直しを職員が協力して実行している。「ほっとするコーヒーやさん」の本来の目的をしっかりと捉え、時間を変更したことで保護者が活用しやすい交流の場となった。また、保育者との話す機会も増え、副次的な効果が生じ、非常に有意義な空間を提供することができている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

行政から保育ICT(情報通信技術)が推進され、これまでの手書きや紙ベースで行ってきた業務の見直しが必要となり、同時に保育士の負担軽減対策が必要となった。紙で出していたお便りやお知らせ類を全てメール配信に変更し、連絡帳のやり取りも保育アプリを利用して行うようになった。電子化したことは保護者にとって便利になり歓迎され、クレームもなくスムーズな移行ができた。保育士も確実に負担軽減を図ることができた。今後は、保育アプリの機能は進化しているので、遅れることなくさらに活用して、保育者の保育に携わる時間を増やす方針で取り組んで行く。また、保育アプリを利用してどのようなことができるか検討している。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

・近年、ICT(情報通信技術)化は急速に進んでおり、業務改善において不可欠な要素となっている。園もこの流れでペーパーレス化や保育士の負担軽減を図った。保護者は日頃スマートフォンを使用している方が多く、保育アプリなど抵抗なく使用し、さらに便利に使いたいという要望まで出ている。園をあげての取り組みであるため職員も、ICT化の目的をしっかりと理解し、取り組むことができています。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	サブカテゴリー1の講評	
	<p>園の特色や教育と保育について等の情報をホームページやパンフレットで提供している</p> <p>区・法人のホームページ、民間保活サイト等に事業所情報を掲載している。見学者や利用希望者には、パンフレットを配布して情報提供している。パンフレットには、豊かな心・確かな知性・健やかな身体を大切に育むための基本理念、教育・保育方針、教育・保育目標と5つの願いを明示している。目標を達成するための方針、特色ある教育と保育について、概要、年間行事予定も掲載し、園の想いが伝わるような構成としている。子どもが遊びや生活から学び、成長している。そのために必要な体験を積み重ねることができる環境を整えていることを発信している。</p> <p>園の教育・保育について利用希望者が理解を深めることができる発信をしている</p> <p>運営主体の法人だけでなく、区の主管課担当にも毎月報告し、園内の情報を共有する仕組みがある。区との連携体制を大切にしており、事業内容等については、承認を得て進めている。ホームページや園のパンフレットは、必要に応じて改変している。法人のホームページでは、施設・概要や、1日の生活、年間行事、子育て支援、毎月の園だより等を掲載している。和太鼓に取り組む子どもの姿、5歳児のキャンプ、幼児教育特別プログラムほか、特色ある活動について紹介しており、園が行っている幅広い取り組みがわかるように充実した内容となっている。</p> <p>見学の受け入れ等、個別の状況に応じて丁寧に対応し、園の取り組みを伝えている</p> <p>施設見学が多く、人数の上限を決め対応しているが、できるだけ見学予定者の都合を考慮し日程を調整している。見学の機会を利用して、幼稚園と保育園の両機能を持つこども園の特色、子育て支援事業等について説明している。保育内容を理解して頂くため、見学後は質疑応答の時間を取り丁寧に対応している。子育て支援講座等で子育てについて学ぶ機会を年に3回開催し、毎月、こども園で遊ぼう、園庭解放を実施し、観劇会には地域の方々や親子が参加している。利用希望者のニーズに合ったタイムリーな情報発信ができるよう工夫しながら発信している。</p>	

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>重要事項説明書の留意事項等を丁寧に説明し、同意を得るようにしている</p> <p>新入園児保護者には、入園前面接や入園式の後で重要事項説明書について内容を説明し、保護者の意思を確認した後で同意書を提出してもらう。保育継続の在園児保護者にも年度当初に重要事項説明書を配り、変更事項があれば説明し、確認のうえ同意を得ている。一時保育を始めて利用する方には面接を行い、システムや園を利用する際の基本的なルールや留意事項、入園の際に必要な持ち物、一年間の教育・保育の見通しについて伝えている。子どもの集団生活の開始に伴う不安を軽減できるよう丁寧な説明を心がけて対応している。</p> <p>新たな環境で安心して過ごせるよう保護者の意向を確認し保育に活かしている</p> <p>新入園児面接において、保護者の勤務状況や子どもの育ちの家庭等を聞き取り、園生活に活かしている。入園までの生活状況については、食事、睡眠、排泄、清潔、着脱、表現・理解や言葉の発達等の項目に沿って状況を確認している。既往歴や予防接種の状況、体質的な特徴、アレルギーの有無等は、必要があれば看護師や栄養士が話を聞き取り、児童票に記録している。園全体で子どもを見守り、全教職員が把握・共有して教育・保育に活かしている。子どもと保護者が共に安心して園生活を送れるよう送迎時にはできるだけ声をかけ、育ちの共有を図っている。</p> <p>環境の変化に対応し、安心して過ごせるよう支援を行っている</p> <p>サービス開始時は、子どもの様子に合わせて個別に対応している。乳児は特に慣れ保育を行い、親子で過ごす時間を設ける等、時間をかけて新しい環境に適応できるようにしている。一人ひとりの生活リズムを重視し、不安や思いを受け止め、安心できる大人との関わりの中で徐々に慣れていけるように援助している。離乳食や乳児食の進行状況を聞き取り、一人ひとりに合わせた形態でストレスを軽減できるように配慮している。また、就学前には、小学校の見学を行い、入学する学校への申し送りを行う。入学後は必要に応じて担任との連携を図っている。</p>			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、指導事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

定められた手順で収集した情報を記録し、子どもの状況を把握・共有している

指導計画は、教育及び保育の内容に関する全体的な計画に基づき作成している。日々連絡ノートや、送迎時の保護者との話から、一人ひとりの子どもの状態や環境を把握し、指導・援助を考えている。子どもの心身や生活状況の変化、毎日の記録は、該当月の翌月20日までに、統一した様式で一人ひとりの記録を記入している。保護者のニーズを把握するため、保育参加と年1回個人面談を実施し相談に応じている。そのほかに、5歳児は春と秋に面談を行っている。また、ケース検討会を臨床心理士を招いて年に3回、行動観察を3回行い学びを深めている。

子どもの様子を踏まえた計画を作成し、保護者にわかりやすく説明している

年間指導計画は年度末に、月案は毎月子どもの成長を促せるように見直し、その際、主任が打ち合わせに参加して、計画を立てている。月の個人保育計画に支援内容とその結果、子どもの姿がどのように推移しているのかを記録している。指導計画は、園だより・クラスだよりで保護者に知らせ、質問等あれば、主に担任が丁寧に説明している。個別的な計画や指導が必要な子どもについては、巡回指導で受けた助言や、園での関わり方等を保護者に伝え、家庭との共通理解を図り、一緒に取り組んで頂けるよう個別に対応し、お願いしている。

子どもに関わる情報を記録や会議を通じて職員間で共有化している

昼の時間に行っている「スタンド会議」で、前日午後から当日午前中までの子どもの体調等、全教職員が把握しておくべき内容を確認している。特に延長、早朝時間等、保護者が直接担任と会えない時間帯の事柄は、必ず報告・共有している。また、保育業務支援システムを導入し、0歳～2歳児までは保護者連絡を電子データで記録できるようになり、幼児の記録も保育ドキュメンテーションで個別に記録できる等、共有化が進んでいる。月に1回のリーダー会議では、各クラスの月案の内容が年齢にふさわしいものになっているか討議をして決定している。

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>日常生活や遊びの中で子どものプライバシーの保護を徹底している</p> <p>個人情報の取り扱いについては、入園時に重要事項説明書に基づき、保護者に説明している。個人情報の利用についても同意書を提出してもらっている。おむつ交換や着替えの際には、カーテンを閉めたり、衝立を使い外部から見えないようにしている。一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いや接し方に配慮している。春に法人で包括的性教育について外部講師による研修会があり、秋に園の実践報告を行っている。また、年齢に応じて保健指導を行い、プライベートゾーンについての話を伝える等、自分の体を大切にすることにも触れている。</p> <p>職員は子どもの権利を守り、子どもの人格を尊重した援助を追求している</p> <p>個々の家庭での過ごし方や生活習慣に配慮し、一人ひとりの子どもの心に寄り添い、子どもの目線で心を通わせる保育を実践している。日常の教育・保育の場面で、子どもが自分で選択できるようにする等、子どもの意思を尊重した対応を心がけている。子どもの表情や仕草など小さなサインを見逃さず、保護者の子育ての不安や気がかりなことについても傾聴し、様々な課題にも専門職としての視点で取り組んでいる。支援を必要とする家庭や気になる子どもに関しては、教職員間で状況を確認し、必要に応じて関係機関と連携する体制を整えている。</p> <p>日頃から子どもや保護者の価値観等に配慮した教育・保育を行っている</p> <p>基本的な園の決まりを維持しつつ、子どもや保護者の生活習慣や価値観等、個々の事情を充分に考慮しながら、柔軟な対応をしている。年度当初に子どもの権利について全教職員で職員のしおりや、保育職としての心得の読み合わせをして確認し、意識を高めている。子どもの人権を尊重して、名前の呼び捨て、差別用語、プライドを傷つける言葉の暴力には常に注意し、あるいは、無意識に使っていないか、教職員間で、その都度声をかけ確認し合っている。また、ハラスメントや個人の尊厳などが遵守できるよう、講義を受ける機会を設け、定期的に確認している。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>定期的にマニュアルを見直し、更新、周知を徹底する仕組みがある</p> <p>運営の基準となるマニュアルが備えられ、日々の保育に関する基本事項についての手順等を明確にしている。マニュアルは、職員に配布して、随時確認することができるようにしている。また、全教職員に園のしおり(重要事項説明書)を配布して読み合わせを行っている。しおりについては、日常の教育・保育を実施する上での配慮、子どもの安全を守るためのポイント等、園の取り組みに対する共通理解の土台としている。内容によりチェック表を用いて業務点検等を行い、子どもに関わる全ての教職員が統一的な対応を取ることができるようにしている。</p> <p>教職員や保護者の意見を活かした見直しを行い組織全体の向上を図っている</p> <p>安全で快適な施設環境を維持していくために、日々の留意事項や対応手順をマニュアルとして明確化し、それらを見直す仕組みがある。行事ごとの反省や学期・月ごとの見直しを実施し、日常の教育・保育の実践の面では、随時、保護者と教職員からの意見をとりまとめ活かすようにしている。また、保護者参加の行事後は、アンケートを実施し、保護者の意見や思いを次の行事の参考にしている。職員は行事担当の他に、防災や図書等の係がチームごとに年間目標を決めて活動している。学年末には振り返りを行い、次年度に反映できるようにしている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している	○ 非該当	
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している	○ 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの状況を把握し、主体的に関わることができる環境の工夫をしている</p> <p>保育日誌や児童票で家庭状況を理解し、送迎時に保護者から家庭での様子を聞いて園での姿を伝えている。乳児・幼児共に個人面談を行い、全体的な発達の過程や生活環境を把握し、指導計画の作成や関わり方につなげている。なお、個人面談は必要に応じて声をかけ、随時相談に応じる等、個別に対応している。日々の振り返りやクラス会議で子どもの興味・関心に目を向け、好奇心や探求心が満たされるような環境を用意し、年齢・発達に合わせた遊びを提供している。玩具は、木の温もりを感じられるものや手作りのものを提供できるように心がけている。</p> <p>子ども同士が互いの違いを受け止め、尊重する心の育ちを支援している</p> <p>幼児クラスは、1号、2号という認定の違いを超えて同クラスで生活し、お互いの生活の違いを自然に理解し、認め合えるようにしている。教職員は子どもの話を聞き、共感し、一人ひとりの気持ちを尊重した対応を心がけている。それぞれの子どもが必要な支援を受けながら同じ場で遊び、コミュニケーションを取り、時にはぶつかり合う等の経験を積み重ね、互いの違いに気づき、認め合い、成長できるような教育・保育を行っている。統合保育の中で皆と一緒に、自分のできることをがんばれるよう一人ひとりの発達に応じた指導や援助に取り組んでいる。</p> <p>子ども一人ひとりの姿を職員間で共有し、個々の成長・発達を考慮した支援をしている</p> <p>個々の子どもの状況について全教職員が共通の認識を持って見守り、関わるようにしている。子どもが遊びや生活の中で体験するトラブルの際は、その事象のみで判断するのではなく、その前の子ども同士のやりとりを考え、子どもの気持ちに寄り添った対応を心がけている。集団の中で一人ひとりが尊重され、友達と共に成長できるよう働きかけることを大切にしている。保幼小連携交流のグループで毎年交流を企画している。小学校を訪問して一緒に遊ぶ等の交流を毎年行っている。子どもたちからは小学校が身近に感じられるとの感想が出ている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			○非該当
評価項目2の講評				
<p>登降園時に交わす保護者とのコミュニケーションを大切にしている</p> <p>登園時には、保育業務支援システムの情報に目を通し、前日に体調不良だったり、けがをしたり、気になることがあった場合には、その場で保護者に確認している。家庭での食事や排せ、投薬の有無を確認し、日中に体調の変化があった時の判断材料にしている。気になることはデイリーボードを活用し、教職員間で周知している。子ども一人ひとりの様子を日々確認しながら、各クラスが配慮した活動で子どもの生活が安定するよう教育・保育を行っている。また、活動をシステムで配信するだけでなく、送迎時に一言でも子どもの様子を伝えるようにしている。</p> <p>子ども自身の意欲が生活習慣の自立につながっている</p> <p>基本的な生活習慣の自立に向け、成長・発達に合わせた援助を計画的に行っている。乳児は一人ひとりの生活リズムに合わせており、幼児は年齢・時期・活動により個別に配慮している。排せつでは徐々にトイレに誘う等、興味を持たせ、できた時には褒め、自信を持てるようにし、自立を促す声かけや関わりを実践している。着脱は子どもが自ら取り組めるよう環境を設定している。また、生活や遊びの中で自然に手先指先の発達を援助できるよう、玩具や活動内容、環境設定を工夫して、「やってみよう」とする子どもの気持ちを大切にしながら自立につなげている。</p> <p>子どもの様子を保護者に伝え、共有し、信頼関係の構築につなげている</p> <p>登園時間の早い子どもや0歳児は、午前寝や午睡の他に仮眠をとる等、個々の生活リズムを考慮した対応をしている。1歳児以上は家庭と連携を取り、個々の状況に合わせ午睡の時間の配慮をしている。毎日の登降園の際には、保護者と子どもの様子について話し、情報を共有すると共に、保護者の子育ての様々な立場に寄り添い、傾聴し、会話を通して保護者との信頼関係のさらなる構築につなげている。保護者の価値観や多様性に対応し、肯定的な視点から伝え、共に子どもの育ちを支援できるよう、学びを継続しながら対応力のさらなる向上を目指している。</p>				
3 評価項目3		日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている			○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている			○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている			○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもががまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している			○非該当
評価項目3の講評				
<p>日常の中で子どもが自主性や自発性を発揮して遊べるように指導・援助している</p> <p>子どもの年齢や発達を考慮し、安心して遊べるような空間づくりに取り組んでいる。子どもが興味を持って「やりたい」と思った時に、取り出しやすい設定を心がけ、遊びの様子により乳児でも机上の遊びを設定している。幼児は、子どもが自由に素材を使えるように配置して、遊びの継続性にも配慮した対応をしている。4. 5歳児は、体力向上プログラム・英語プログラムで子どもの発達を促し、主体的に関われる取り組みがある。子どもが活動に参加して、集団で遊ぶ楽しさを十分味わえるように、教職員が側について見守り、必要に応じ指導・援助している。</p> <p>子どもが応答的なやり取りを楽しみ、自分の思いを表現できるようにしている</p> <p>言葉に対する感覚を養うため、生活や遊びの中でその場に合った言葉を知らせ、絵本や紙芝居の読み聞かせの時間を大切にしている。乳児は保育者が仲立ちになって、子どもの思いを代弁したり、表現方法を見せたり関わっている。幼児はクラスやグループで自分の意見を出して話し合ったり、保育者が助言をしたり、言葉で気持ちが伝わることを実感できるようにしている。相手に理解してもらえる心地良さを感じ、伝えようとする意欲を高めている。また、乳児期から保育士の肉声を大切に、歌を歌ったり、手先を使った遊びを多く取り入れている。</p> <p>五感を使い様々な活動を経験する中で子どもが自分の気持ちを調整する力を育くんでいる</p>				

風、土、光、水に触れ心の開放をし、保育者が視野を広く持ち、木の葉の移り変わりや、どんぐり等の木の实を拾ったり、虫探し等自然物に触れられるようにしている。子どもに経験させたい活動を考え、落ち着いてじっくりと遊び込めるよう配慮し、木製遊具や手作り玩具を多く取り揃えている。生活の中で見たり、聞いたり、感じたりしたことを子ども自身が試したり、再現したりしながら自由な発想で遊びを展開できるようにしている。また、生活や遊びを通じて相手の気持ちに気づいたり、自分の気持ちをコントロールしたりする経験の場を作っている。

4 評価項目4 日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は子どもに相応しいものとなるよう興味や関心を踏まえ計画を策定し、実施している</p> <p>コロナ以降、園全体で行事の取り組みについて考え、発達段階にふさわしい行事にしたいという視点で見直しをしている。子どもの遊びの中から、遊びが展開していくように環境を整える等、保育士は素地の準備をしている。具体的な取り組みや活動では、子どもが自分なりのイメージを持ち、興味・関心を持ち進められるようにしている。運動会は3歳児～5歳児の参加にし、乳児は、日頃行っている運動をする「わくわくDAY」というプログラムに変更した。夕涼み会も5歳児がお店屋さんを行い、他クラスの子もたちが遊びに来るプログラムに変えて行った。</p> <p>年齢に応じた行事への参加の仕方を工夫し、心の成長につながるよう取り組んでいる</p> <p>乳児クラスは個を大切にしながら、無理なく大人と一緒に行事を楽しめるようにしている。3歳児は、日頃から親しんでいる歌や体操を、取り入れ、皆で一緒のことをする楽しさを感じ、4、5歳児はクラス内で話をしつつ意見をまとめ、みんなで協力し、やり遂げる喜びを味わえるようにしている。各クラスの取り組みに触れ、実際に活動を見ながら小さいクラスが大きいクラスの真似をしてあこがれの気持ちを持ったり、大きいクラスが手伝ったり応援したりする等、互いに良い刺激を受ける姿がある。</p> <p>行事を通してみんなで協力し、やり遂げることの喜びや達成感が味わえるようにしている</p> <p>行事を通して、子どもが友達の良さに気づき、一緒に活動する楽しさを体感することができるようにしている。5歳児のキャンプの経験では、友達と協力して取り組む経験を経て個々が力をつけ、一つの事をやり遂げる喜びや達成感、充実感を得ることができている。また、お誕生会では成長を祝い、季節にちなんだ日本の文化を伝える行事を大事にし、絵本、紙芝居を取り入れながらその由来等を伝え、行事の意味等がわかるようにしている。子どもの取り組む姿や成長の姿を保護者と共有することで理解と協力を得られるようにしている。</p>		
5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>在園時間の異なる子どもが楽しく遊び、関わることを大切にしている</p> <p>在園時間が異なる1号認定・2号認定の子どもを一緒にクラス編成にして、プログラム(主活動)を共有し、共に遊び生活し、自然と関わり合い友達関係を作れるようにしている。幼児クラスは、子どもの登園が揃った時間帯にみんなで集まり、その日のスケジュールやこれからの予定について子どもたちが把握できるようにしている。活動は一日の中でたくさん遊ぶ、ゆったり過ごす等、静と動のバランスに注意し、安全にも配慮した教育・保育を整えている。教職員は子どもが「ひと」や「もの」や「こと」に関わり遊びを楽しめるように寄り添っている。</p> <p>在園時間が長い場合も楽しく過ごせるよう活動や環境の工夫をしている</p> <p>在園時間が長く遅い時間帯でも落ち着いて遊べるよう、延長保育用の玩具を用意し遊べるようにしている。室内はコーナーに仕切られ、安心できる環境を作り、時期や興味に合わせて遊具や玩具を入れ替え子どもが選んで遊べるようにしている。合同保育の形態の中で、小さい子に対する思いやりを育める配慮を日々の中で行っている。子ども同士が互いの様子を気にしながら自然に関わり遊ぶ姿が見られている。教職員間で個々の子どもの情報を共有し、保育にあたっており、子どもが安心して過ごせるように、温かく気持ちに寄り添う姿勢を大事にしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが食への意欲を持ち、楽しく安心して食べることができる食事を提供している 給食は、区の統一献立に基づき自園で調理している。旬の食材を取り入れ、栄養バランスを考え、素材の味を活かすため薄味にして香り、彩り、旨味等に配慮した昼食とおやつ、また、延長保育が必要な子どもには補食、夕食を提供している。誕生会の昼食は、特別メニューで、季節に合わせた飾りつけや、当日の出し物に関わるものを作っている。また、日本の郷土料理を取り入れ、工夫を凝らした食事を作っている。残量を把握したり、クラスの担当者から状況を聞き、給食会議で食べ具合を共有し、献立や調理法について話し合い次月の給食に反映している。</p> <p>一人ひとりの子どもの年齢や体調等に合わせた食事を提供している 食物アレルギー対応マニュアルに則り、食品除去の診療情報提供書(宗教等文化の違いによる場合も同様)除去食対応についての確認書等、必要な書類を提出してもらい、保護者と確認を取っている。医師による指示書を基に、アレルギー食品の除去等の対応を共有し、食器やトレーは別にし、誤食のないよう徹底した対応を行っている。定められた手順に則り、口頭および目視確認を複数で行い、全教職員が誤食を防ぐために手順を理解して細心の注意を払い配食している。なお、体調の悪い時には、形態を変えたり、量を減らす等の対応をしている。</p> <p>子どもが様々な体験を通じて楽しく食べることができるよう取り組んでいる 園庭や2階のベランダで様々な野菜の栽培に取り組み、水やりをしながら生長を観察し、収穫して実際に食べてみる等、自分たちが育てたことにより、いつも食べている野菜に関心を持てるようにした。実際に調理することで食に対する興味がわくような体験機会を設けている。収穫感謝祭に参加し、野菜を観察し、0~2歳児は高年齢クラスが栽培した植物の成長を見て楽しみにしていた。4、5歳児は芋堀り遠足に出かけ、畑でたくさんの芋を収穫する喜びを味わう体験もしている。安全で美味しい給食を楽しく食べられる工夫をして食育に取り組んでいる。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>保護者と連携して子どもの健康を維持できるよう取り組んでいる 看護師は、各年齢に合わせ健康教育を実施している。園で体調の変化がみられた場合は、園内で流行っている感染症等も知らせ、受診の際の参考にしてもらっている。感染症が出た場合は、特に手洗い・うがいの大切さを知らせ、看護師による指導をし、確認している。遊びの場面で危険なことをしているときに、その場で注意し理由を伝え、けがの防止に努めている。園では、安全計画を策定し、その中の安全教育の生活安全や交通安全では、月ごとに項目を掲げ、子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、けがや病気を防ぐことができるように取り組んでいる。</p> <p>専門機関等との連携により子どもの健康を維持できるよう援助している 急遽、病気やけがで医療機関への受診が必要な場合には、保護者に連絡を取り、園から医療機関に連れて行ったり、お迎えを依頼したりする等、支援体制をとっている。嘱託医による定期的な内科健診や歯科健診、身体測定等を行い、それらの記録は保護者とも共有している。けがや体調を崩した際には看護師が対応し、嘱託医への相談や受診対応もすぐに行える体制がある。また、巡回で来るカウンセラーとも連携して対応できるようにしている。乳幼児の健康情報提供については、機会あるごとに保護者に伝え、毎月の保健だよりでも情報を提供している。</p> <p>子どもの健康を維持できるよう身体づくりを援助し、危機管理意識や対応力を高めている 戸外遊びや水遊び、体力向上プログラム等日々の活動を通じて体づくりに取り組み、子どもが体の使い方を身に付けられるように援助している。危険が想定される場所では必ず安全指導を実施し、けがや事故を防ぐため各担任が保育環境を目視、点検している。危険箇所があれば、即対応し改善に努めている。教職員全体の危機管理意識を高めるため、アレルギー児の受け入れ、嘔吐処理や感染症防止、緊急対応の手順については定期的に確認して共有している。また、ヒヤリハット、事故報告書を職員会で振り返り、危険回避と事故再発防止に取り組んでいる。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>利用時間の異なる保護者の状況を踏まえ、個々の事情に合わせた対応をしている こども園は、1・2・3号の生活形態の違う子どもが入園しているため、それぞれに配慮した受け入れを行っている。各保護者の意見を聞けるよう、日常的な会話、クラス懇談会、個人面談等を通して保護者の意見・要望を把握し、職員間で検討して運営に反映している。月に1回、降園後に保護者同士で交流できる場として「ほっとするコーヒーやさん」を行っている。保護者には、あたたかい飲み物を出して、帰宅前の保護者と子どもがほっと一息ついてもらう場所として、保護者と職員、保護者同士が気軽に話ができる交流の場を設けている。</p> <p>子どもの発達や活動の様子を保護者と共有し、教育・保育への理解を深めている 運動会、4、5歳児遠足、5歳児キャンプ、発表会、クラス懇談会等、保護者参加型の行事を行い、保護者同士の交流や教職員との交流を図っている。また、保育参加期間をクラスごとに設け、1日1組の制限で受けている。外遊びや室内遊び、自分のやりたいことを言葉で伝える姿、泣いている姿、他の子どもや教職員との関わりの中で見せる表情や様子等、普段の生活の様子を見ることで、子どもの成長を実感する機会となっている。ほかに、年1回は個人面談をする時間を設けて、子どもの姿を共有し、教育・保育への理解を深めることへとつなげている。</p> <p>保護者と教職員の信頼を深め、個々の事情に応じた子育て支援を行っている 園だよりやクラスだよりで、子どもの日頃の様子を発信し、保育ドキュメンテーションでは写真を載せて保育内容の見える化をしている。登降園時には、必ず担任及び教職員が一言でも言葉を交わしコミュニケーションを図るようにしている。子どもの発達について、担任または保護者が気になっている場合は、個人面談で話を傾聴している。園の様子や具体的な接し方や、言葉のかけ方等を一緒に考えることで、保護者の子育てを支援している。また、区の巡回指導やカウンセリングを年に3回行い、子育ての悩みなどを専門家に相談できる機会を作っている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(00)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
評価項目9の講評			
<p>地域と関わる取り組みを通じて子どもの経験を広げている 近くの公園へ散歩に出かける機会も多いことから、子どもも保護者も、近隣住民の方と自然に挨拶を交わす関係性ができている。同じ建物上階の同法人が運営する、芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ(愛称あいぶら)や学童クラブと一緒に、「芝浦ハロウィン」を開催している。グループごとに地域の協力施設や企業を巡回する。巡回中ハロウィンに参加しているグループが出会うとシールの交換や挨拶など取り決めて行っている。こちらの催し物への年々参加者が増加しており、行事を通して地域の子どもたちとも交流ができ、人間関係が広がっている。</p> <p>子どもがさらに多様な体験や交流ができるような機会を確保していく意欲を持っている 子育て支援事業として行っている、「こども園で遊ぼう」や「園庭開放」では、園の活動に参加する地域親子と園児と一緒に遊び触れ合う機会がある。保幼小の連携では、小学校との連携してオープンクラスに参加する機会等があるが、コロナ以降、地域の方を園行事に招くことが難しくなり、自園の運動会でも地域の方の参加枠を無くしている等の現状がある。今後、法人内で話し合っ別のかたちで園児と地域の交流の機会を作って行きたいと考えている。無理なく、長く継続できる取り組みを考え、子どもの生活の幅をさらに広げていく意欲を持っている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-4	日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル①	子ども発達段階にふさわしい行事に取り組み、子どもの経験を広げ育ちを支えている	
内容①	乳幼児の子どもの発達段階にふさわしい行事について再考し、話し合いを重ね、園全体で取り組んできた。行事は、子どもの視野を広げ、柔軟な思考を育む助けとなり、新しい経験や学びの機会を提供している。5歳児のキャンプの経験は「新しい挑戦」であり、皆で協力することやコミュニケーションの大切さを学ぶ等、成長が実感できる行事である。これまでの取り組みの良さや意味を熟考し、保育者は、遊びの中から行事へ展開していくように環境を整え、素地の準備をし、年齢に合わせた内容を模索しながら充実を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	多様な経験を保障し一人ひとりの心身の発達や育成の基盤を育てている	
内容②	専門の講師を招いて4、5歳児は、幼児教育特別プログラムに取り組んでいる。体力向上プログラムは、年齢や子どもの発達に合わせて、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを体験している。英語プログラムは歌やダンスを楽しみながら、英語に親しみ異文化に触れる機会になっている。教職員や友達と一緒に楽しく活動に参加しながら、子どもの興味・関心や経験を広げ、心を豊かにし、健やかな体の成長発達を促すための基盤を作っている。活動の様子は保護者とも共有し、取り組みの目的や活動内容の理解を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル③	教職員一人ひとりの学びが、保育の質や職員の資質向上や組織の力になっている	
内容③	園内研修や法人研修など常に保育の研鑽に努めている。年2回の法人の研修では学識経験者の講演と参加者のグループ討議等を取り入れている。園内研修では、職員が「豊かな心」「確かな知性」「健やかな身体」の3チーム分け、子どもの遊びについて毎年課題に取り組んでいる。取り組み内容は保護者にも伝え、外部講師を招いて保育の検証や臨床心理士によるケース検討会議を行い、外部の学識経験者や、行政の担当者の前で発表をして講評を頂き、学びを深めている。学びの継続が、保育の質と職員の資質向上の原動力になっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが主体的に関わりながら自分のやりたいことが実現できるように支援している
	内容	乳幼児期にふさわしい生活や遊びが保障された、0歳児から5歳児まで一貫した教育・保育となるように計画を立て保育を実践している。自然が感じられる園庭や、園舎の空間を生かした環境設定を考え、子どもの興味・関心を引き出し、「やりたい」という思いが実現するよう取り組んでいる。子どもが主体的に集団活動に関われるよう、思いに寄り添いながら子どもからの発信を捉え、活動のプロセスを大事にした働きかけや支援の工夫をしている。園児の人数が多く、活気があり、異年齢同士の関わりを通して経験する認め合いや、思いやりが育まれている。
2	タイトル	専門性を活かした取り組みで、地域の子育て世帯の子育てを支援している
	内容	こども園の専門性を活かした子育て支援の取り組みとして、子育て支援事業に取り組んでいる。「こども園で遊ぼう」や「園庭開放」では園の行事や活動に参加し、在園児と一緒に遊ぶ時間を設け、園児や教職員との交流を図れるよう日々の体制を整え受け入れている。「休日保育」や「育児相談」にも応じている。毎日、「一時保育」の子どもを受け入れ、地域の子育て世帯に寄り添った保育を行っている。こども園が頼れる場所として、地域の親子に寄り添い、子育ての孤立を防ぎ、親子で楽しみながら子育てできるよう、悩みや不安の軽減につなげている。
3	タイトル	教職員間の良好なコミュニケーションが組織力と保育力の向上につながっている
	内容	教職員間のコミュニケーションが良好で、組織の理念や方針を全教職員が意識して取り組み、日頃から学年やクラスの枠を超えて話し合う場があり、子どもの理解を深めている。経験・年齢に関わらず、職種を超えて互いの良い面を認め合うことができる。職員数が多いので情報伝達に工夫し、共有を図りながら保育準備や環境整備等、協力して進めることができている。また、区及び法人との連携も確立されており、教職員は小さな気づきにも声を上げ、できるだけ速やかに対応する等、日々の安心・安全な保育の提供や組織力の向上につなげている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域のニーズを把握しながら園ができることを考え、引き続き地域貢献に取り組んでいく
	内容	関係機関との協力・連携や情報共有に努め、園の特性を活かした様々な子育て支援事業を提供している。取り組み内容は、ホームページのほか園の見学希望者への案内や周知等、積極的に発信している。園としては、保育の専門性を活かし、地域に対してより一層役割を果たしていく意欲を持っている。そのためには、地域において何が求められているかを探り、子育て支援事業のより効果的な周知方法や、参加しやすい工夫を検討し、専門的な知識を活かせるようなプログラムを考え、引き続き地域貢献に向けた取り組みを進めていくことを課題としている。
2	タイトル	保護者と一緒に子育てを考えていけるような関係性を築き支援していく
	内容	月に1回、降園後に保護者と子どもたちが、コーヒーを飲みながら集う場所の提供をして、保育者と保護者や保護者間の交流の橋渡し等を行っている。また、保育ドキュメンテーションの活用や保育参加、個人面談等の時間を設け、保護者と子どもの姿を共通理解できるよう努めているが、まだ十分ではないと感じている。園生活を積極的に公開し、保育活動を通して成長している子どもの様子や、実際の体験をもっと保護者が知ることができるようにし、園と一緒に、子育てについて考えていけるような関係性を構築し、親の子育てを支援することを課題としている。
3	タイトル	職員自身が主体的に保育に取り組み、組織全体の保育力向上を目指していく
	内容	指導計画上のねらいや保育・支援の意味、子どもの行動の理由等を再考し、全教職員が園の保育の理解を深めてきた。主体的に保育に取り組み、楽しさを実感し、職員自身が成功体験を積み上げることが、職員の資質向上にもつながっている。若い職員が園でキャリアを積んで、指導的な役割を担えるようなキャリア形成プランを作成できるよう取り組みを重ねていく。これまでの振り返りを活かし、新たな視点で保育のねらいを持って活動を組み立て、子どもの主体性を引き出し、保育実践をさらに充実させ組織としての保育力向上を目指すことを課題としている。